

薬史学会通信

No. 6 1988年 2月

東京都千代田区神田駿河台
日本大学理工学部薬学科内
日本薬史学会事務局

「日本薬史学会 文庫」

明治薬科大学（世田谷校舎）に 開設

前号でお知らせした「日本薬史学会文庫」は、いよいよ本年中に開設される運びとなりました。具体的には本年 4月、広島で開かれる総会の席上で明かにされるはずですが、明治薬科大学の大槻真一郎先生は非常に張りきっておられ、同大学・世田谷校の正面本館の2階の一室には、既に表札も掲げられ、スチール製の書棚も入り、本格的オープンを待つばかりになりました。

この文庫は昨年の評議員会の席上「系統的に薬史学の勉強をしたいけれど、基本文献・参考書の類がなかなか手に入らない、学会として便宜を計れないものか？」との質問が出され、それに就いての検討の中から生み出されたものであります

まず手始めに各薬系大学の歴史、企業の社史、薬史学関係論文のリストや論文コピーのファイルなどを整備したいと、種々企画を建てております。

そのほかについては、皆さまよりご意見を頂き、そこから更なる事業発展のヒントを求める所存であります。宜しくお願い致します。

薬史学会々費を前納下さい。

一般：（年） 5,000 円
学生：（年） 2,000 円

振替口座、 東京 2-67473, 日本薬史学会

○ アメリカ薬史学会

' Pharmacy In History '

アメリカ薬史学会は、本部をウイスコンシン州ミシガン湖西方のマジソン市ウイスコンシン大学薬史学研究所 (American Institute of the History of Pharmacy) の中に置き、年4回、学会の定期刊行物として ' Pharmacy In History ' を発行している。この学会誌は昨1987年で第29巻第4号を数えるに至っている。

当雑誌の表紙はカラー刷り、B5判、50ページで、その内容は : Articles と Note & Departments に大別されて掲載されている。近着雑誌の Articles の幾つかを紹介すると :

■ Vol.29, No.2, 1987.

* The Professional Legacy of John Attfield, by Marsha B. Mrtek.

* Taste and Quality in 15th- and 16th-Century Galenic Pharmacology, by Philip M. Teigen.

■ Vol.29, No.3, 1987.

* Aspirin in Germany :The Pharmaceutical Industry and the Pharmaceutical Profession, by Jan R. McTavish.

* Pharmacy in L'Imagerie Populaire by William H. Helfand.

■ Vol.29, No.4, 1987.

* Women Pharmacists in Nineteenth- and Early Twentieth-Century Russia, by Mary Schaeffer Conroy.

* The Development of a Pharmaceutical Profession in Ireland:From early beginnings in the 17th century around Dublin to the establishment of the Pharmaceutical Society of Ireland, Norman C. Cooper.

なお編集発行者は以下の通りである。

・ Editor: Gregory J. Higby, Ph.D.

・ Assistant Editor:

Elaine Condouris Stroud, Ph.D.

・ Publisher: American Institute of the History of Pharmacy, located at the University of Wisconsin, Pharmacy Building, Madison, Wisconsin 53706-1508

○ アメリカ薬史学会総会 3月開催

同学会の本年の総会は、ジョージア州アトランタ市で 3月12~16日に開催される。(昨年はシカゴ市で 3月末にアメリカ薬剤師会総会に合わせてひらかれた)。

最近5年間のアメリカ薬史学会々員数の推移については下表の如くである。

	<u>1986</u>	<u>1985</u>	<u>1984</u>	<u>1983</u>	<u>1982</u>
Regular Members	745	714	722	652	722
Contributing Members	208	164	116	89	108
Patrons	54	58	64	40	20
Sponsors	15	11	7	8	8
Canadian Members	24	20	26	20	23
Foreign Members	<u>84</u>	<u>63</u>	<u>53</u>	<u>48</u>	<u>62</u>
TOTAL	1,130	1,030	988	857	943
Membership Dues Received	\$49,997	\$45,295	\$42,738	\$34,738	\$31,248

投書より

会員の皆様より本会の活性化のついて、いろいろな提案を頂いております。投書欄の設置もそのひとつであります。たまたま、前号の「通信」をご覧になっての感想が寄せられましたので掲載いたします。(右欄枠内)

今後とも会員各位からのご意見が多数伺えることを心から望んでいる次第です。

昨秋、本学会評議員の方々から、今後の学会運営につき、ご意見を賜る機会があり、多岐にわたる提案を受けることができました。その幾つかを紹介いたします：

まず機関誌紙についての希望として、薬の歴史以外に、医学史・化学史など関連している領域での話題とか、外国での研究活動など、その気になって調べなければ、なかなか判らない情報の媒体になる事が挙げられました。

これは、本学会の性格・力量を大きく変えることを意味いたします。つまり、従来は薬史学について一定レベルの研究者が、それぞれの研究成果を持ち寄って学術雑誌を作り上げれば良かったわけですが、今後は薬史学入門から専門研究に到るまで、さまざまな水準と希望に幅広く対応することを意味するからであります。

しかしその実行となると、言うは易く実際は困難なことです。でも、あらゆる学会活動に共通する課題であってみれば、能・不能にかかわらず、行動しなければなりません。

前略、

62. 11. 15

薬史学会通信 No. 5 拝見いたしました。

日本薬史学会・第一回評議員会討議内容のアンケート内容の要約は、これを見たとき薬史学会の発展を予見できるのがみられ、面白く思いました。それについて一言。

- (1) 薬史学雑誌の体裁はこのままでよいと思う。
- (2) ただしセンスが保守的であってはならない。堅実に発展してもらいたいから、古き皮袋にもナントヤラ。ポスの古狸のオモチャにされないよう、しっかり会長、評議員の方々、今後よろしく願ひいたします。
- (3) 薬史学通信を、より革新的に充実していただき、若年層会員増をはかっているかがてしょうか。
- (4) 例えば新聞の声欄のようなコーナーをもうけていただき、会員は勿論、薬学会や生薬学会にも呼びかけての投書欄にしては……
- (5) 開かれた薬史学会通信は、薬史学会の存在を明らかにし、入会促進の一助になると思います。
- (6) 発表してもらいたい事項、知りたい事項、教えを乞う発言も受けてもらえれば、埋もれた薬史資料が世に出て、またそれを保存するチャンスも生れてまいりましょう。

(大阪市・北野 潔)

係ではそのため、先ず業務全体を見直し、機構をあらため、編集体制を整備する案を総会に提出することとしました。薬史学会文庫の開設もその一環であります。

戦後史・現代史への取組の強化も挙げられました。専門的知識の「有効性の半減期」は5年、と言われるほど進歩の早い現在では、時々刻々、歴史を形成し、今日の事実がそのまま史料になって行きます。会員それぞれの毎日のお仕事から歴史を見、歴史を作る路をこぞって探そうではありませんか。

日本薬学会年会の時以外の時期に集まって討議を重ねたい、とのご意見もあります。本学会が拡大して、必ずしも薬学会々員でない方も増えようとしていることから見て、そろそろ考える段階になった、と思われます。

(K)

薬 史 学 部 会

A02 会 場 (農協ビル)

(一般講演・シンポジウム)

4 月 5 日 (火)

午 前 の 部

9 : 00 ~ 10 : 00 (座長) 滝 戸 道 夫

5A₀₂ 9-1 (9 : 00 ~ 9 : 20)

薬事法規からみた日本薬局方

日本薬史学会 ○末松正雄

5A₀₂ 9-2 (9 : 20 ~ 9 : 40)

近代日本医薬品産業の発展 その 3

JP 4 公布 (大正 9 年) より JP 5 公布 (昭和 7 年) まで

日本薬史学会 ○山田久雄, 山田光男

5A₀₂ 9-3 (9 : 40 ~ 10 : 00)

日本薬局方に見られたタンニン酸製剤の変遷

東日本学園大・歯 松本仁人

帝国化学産業 ○山田光男

10 : 00 ~ 11 : 00 (座長) 山 田 光 男

5A₀₂ 10-1 (10 : 00 ~ 10 : 20)

日本における医薬分業の始まり

日本薬史学会 ○中室嘉祐

阪大・医 矢内原千鶴子

5A₀₂ 10-2 (10 : 20 ~ 10 : 40)

「医制」中薬事関係条文の成立について

東京薬大 ○川瀬 清

5A₀₂ 10-3 (10 : 40 ~ 11 : 00)

栖霞吉郎氏と日立造船安全衛生運動史

日立造船桜島 ○菊川縫子

11 : 00 ~ 11 : 40 (座長) 小 山 鷹 二

5A₀₂ 11-1 (11 : 00 ~ 11 : 20)

アヘン戦争の薬学的考察

松山赤十字病院・薬剤部 ○宮崎正夫

5A₀₂ 11-2 (11 : 20 ~ 11 : 40)

肥後村井家の叢桂园

熊本工大 ○浜田善利

11 : 40 ~ 12 : 20 (座長) 浜 田 善 利

5A₀₂ 11-3 (11 : 40 ~ 12 : 00)

ツェンペリーの来日とその意義 (第 8 報)

一統, 来日の背景—

北陸製薬 ○高橋 文

東京薬大 川瀬 清

5A₀₂ 11-4 (12 : 00 ~ 12 : 20)

古代ギリシア薬物誌の一考察

—テオフラストス『植物誌』第 9 巻を中心にして—

昭和薬大 ○月川和雄

午 後 の 部

—中国地方と医薬学—

2 : 00 ~ 3 : 30 (座長) 江 本 龍 雄

川 瀬 清

5A₀₂ 2-1S (2 : 00 ~ 2 : 30)

明治時代における中国地方の薬学教育

日本薬史学会 小山鷹二

5A₀₂ 2-2S (2 : 30 ~ 3 : 00)

医心方婦人門の薬物療法および原爆被爆直後における民間療法について

広島市 小川 新

5A₀₂ 3-1S (3 : 00 ~ 3 : 30)

総合討論

編 集 後 記

今回は事務局の手作りで「通信」を作成いたしました。素人の怖いもの知らずで、見苦しい出来上がりとなり恐縮です。これも学会運営の力量向上への試みと、お許し下さるようお願いあげます。

昨年、第一回・評議員会を開き、薬史学の今後について種々のご意見を伺って以来、と

ても大きな進歩があったように思います

それがどのようなものであるかは、'88年度になるまで現れてきませんが、確実な進展を期待して頂けるものと考えております。しかし会員数 200 人台では如何ともできず、当面は会の拡大、経済力向上などの基礎固めを欠かすことが出来ません。会費前納についても宜しくお願いいたします。(K)